

《第1部》 実績報告・業績予想

平成 22 年 12 月期 第2四半期 決算説明会

1. 実施日: 8月3日(火)15:00~16:30
2. 会場: コンファレンススクエア エムプラス
3. 内容: 《第1部》 実績報告・業績予想
4. 説明者: 代表取締役社長 菊地 唯夫

~~~~~

お願い:決算説明会資料『平成 22 年 12 月期 第2四半期 決算説明会』と併せてご覧下さい。



## 《実績報告・業績予想》

### 〔平成 22 年 12 月期 第2四半期決算 連結業績 P5〕

平成 22 年第2四半期につきましては、売上高 525 億 16 百万円、前年同期と比較し、23 億 32 百万円の減収、営業利益・経常利益はそれぞれ2億 46 百万円、2億 77 百万円となり、増益にて着地をしております。

四半期純利益につきましても昨年度は2億6百万円の赤字でございましたが、当年は 63 百万円と僅かではありますが黒字に転換した状況です。

売上高は引き続き減収傾向をたどっておりますが、営業利益・経常利益ともに3期ぶりに増益を果たし、四半期純利益という観点でいえば、3期ぶりに黒字を確保したというのが第2四半期決算の概要です。

### 〔セグメント別 売上高・営業利益 P6〕

詳しくは次ページよりご説明いたしますが、セグメント別に見ていきますと、まず外食事業・食品事業が減収減益、機内食事業とホテル事業が増収増益という形になっております。

個人消費に依存しております外食事業・食品事業が、やはり引き続き売上・利益の面で苦戦をしている一方で、昨今企業業績の回復というような議論も出てくるように、ビジネスへの依存度の高い機内食事業とホテル事業については、いずれも売上・利益ともに回復途上にあるというのが全体像となっております。

### 〔外食事業 P7〕

外食事業につきましては、平成 22 年第2四半期におきまして外部売上高 414 億 89 百万円、営業利益 97 百万円と、34 億 91 百万円の減収に対し、約1億 39 百万円の減益となっております。

これを主要な業態ごとに申し上げますと、ロイヤルホストにつきましては昨年度不採算店舗を閉鎖しました影響などにより、外部売上高が 23 億円の減少、利益面につきましても、今上期に集中して 69 店舗を改装した際の経費等々もあり、最終的には1億2千万円の減少で着地をしております。

一方、てんや事業でございますが、5月1日付で完全子会社化を完了しましたが、外部売上高が4億1

## 《第1部》 実績報告・業績予想

百万円減少、利益は 83 百万円減少しました。

ただしこの内のれんの償却の追加分がございまして、これを除くと減益分は 15 百万円となっています。

またその他の外食事業につきましても閉店等の影響があり、外部売上高は7億9千万円減少となっておりますが、一部の高速道路や空港、セミナーハウス、展示場とビジネス需要に影響を受ける分野においては、かなり持ち直しの動きが出てきています。

また利益面においては、昨年度から進めているシナジー効果をグループ全体で広げていく動きや、不採算子会社の整理等々の成果も出てきて、2億 27 百万円の増加となり、外食事業は最終的に合計で 97 百万円の利益に着地したという内容になっております。

### 〔食品事業 P8〕

食品事業は外食事業からの受注減に非常に大きな影響を受けております。

平成 22 年第2四半期は外部売上高で 14 億 53 百万円、前年比較 1 億 8 百万円の減収、営業利益で 24 百万円、前年比較で1億 17 百万円の減益となっております。

### 〔機内食事業 P9〕

機内食事業につきましては、アジア方面を中心とした国際線への搭載が堅調に推移した結果、外部売上高は2億 45 百万円増加し 30 億 13 百万円、営業利益も1億1千万円増加し4億6百万円となっております。

もともと弊社グループの機内食事業につきましては高い生産性を持っており、売上が上がった分利益もきちんと貢献してきているような状況になっております。

### 〔ホテル事業 P10〕

最後にホテル事業でございますが、ホテル事業は昨年度非常に厳しい環境の中で、昨年上期は外部売上高 55 億 37 百万円に対し、営業利益は1億5千万円の赤字決算となっていました。

今年は昨年度新規開業したホテルの稼働率が向上し、既存ホテルについても稼働率が回復してきたことなどの効果により、3億 86 百万円増益し、外部売上高 65 億6千万円、営業利益2億 35 百万円となっております。

稼働率につきましても、昨年度の 71.5%に対し今年は 77.4%ということで、安定した高い水準での稼働率を確保できるようになっています。

### 〔平成 22 年 12 月期決算 業績予想／業績予想の前提 P11〕

通期の業績予想という観点でいきますと、やはり今後もデフレの環境であるとか、個人消費の状況にさほど大きな変化はなく、その一方で企業業績は少しずつ回復基調の傾向がしばらくは続くだろうという

## 《第1部》 実績報告・業績予想

ような前提で、業績予想を考えております。

### [平成 22 年 12 月期 連結業績予想 P12]

今年発表しております通期の業績予想ですが、売上高 1,075 億円、営業利益 19 億円、経常利益 20 億円、当期純利益1億円としております。

上期の状況を踏まえて修正の可能性を検討しましたが、先ほど申し上げた通り、外食事業と食品事業は引き続き厳しい環境ではあるものの、機内食事業とホテル事業は持ち直しの傾向があり、これらを総合的に判断した結果、全体としては2月に公表した予想値から変わらないだろうという予想を立てています。

### [セグメント別 売上・営業利益予想 P13]

セグメント別ではご覧の通り外食事業と食品事業は少し弱含みの見通しとし、機内食事業とホテル事業を少し上向きに修正し、トータルとしては変わらないというような通期の見通しを立てている状況でございます。

簡単ではございますが、以上が上期業績についてのご説明とさせていただきます。

【以上】